



CLUB NEWS

国際ロータリー第2800地区 第5ブロック
山形中央ロータリークラブ
ロータリアンの豊かな創造力・発想力で
新たな一歩を皆で踏み出そう



vol.
1295
2022・2023
MEETING

〒990-0031 山形市十日町1-1-26 歌懸稲荷神社社務所ビル2F TEL(023)632-7777 FAX(023)624-5200

例会 毎週火曜日 12:30~13:30(但し第5週は18:30~) 会場 ホテルメトロポリタン山形



- 会 長 石山 徳昭
- 会長エレクト 玉ノ井 憲史
- 副 会 長 長谷川 淳
- 直前会長 長橋 正人
- クラブ管理運営 本間 雅之
- 職業奉仕 斎藤 眞
- 社会奉仕 相川 博昭
- 青少年奉仕 奥山 宏
- 国際奉仕 柴田 修英
- 幹 事 佐竹 猛
- 副 幹 事 高橋 恭治
- 会 計 青柳 紀子
- S A A 高橋 恭治

国際ロータリー会長 江ノ川 洋子(カナダ)
第2800地区ガバナー 佐藤 孝子(鶴岡)
第5ブロックガバナー補佐 後藤 卓也(山形イブニング)



イマジン
ロータリー

- ◆日時/2022.8.2 12:30 ◆例会場/ホテルメトロポリタン山形 ◆ソング/国歌・奉仕の理想
- ◆ビジター/RI第2800地区 第5グループガバナー補佐 後藤卓也氏

会長挨拶



本日は、今月30日予定のガバナー公式訪問前におけるガバナー補佐訪問として、イブニングロータリークラブ所属の後藤卓也ガバナー補佐がお見えです。この後、卓話をお願いしておりますのでよろしくお願い致します。また、30日のガバナー公式訪問は、コロナ禍

ではありますが、当クラブでは100%出席例会として実施したいと考えています。感染対策には十分対応しながらも、皆さんには是非ご理解頂きご協力をお願いする次第です。

先週のビアパーティーの開催に当たり、開催準備に尽力いただいた深瀬親睦委員長並びに鈴木陽子プログラム委員長、そしてご参加いただきました会員皆さんに改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。

新年度が始まり、あっという間に1か月がたちました。始まってすぐに、コロナの第7波が起こり始め、先月末には全国での新規コロナ患者数が連日20万人を超え、山形県内においても1,000人に迫る勢いで増えています。国、県では特にコロナ対応レベルを変更する動きは無いようですが、先月末には国が、各都道府県独自に「BA5対策宣言」を出せる新たな仕組みを導入しました。新宣言の対象地域では今後、高齢者や基礎疾患を持つ人に対し、混雑場所などへの外出自粛を要請できるとしています。

一方新型コロナ感染症を感染症法上第2類から通常のインフルエンザと同様に扱えるよう指定の変更などを考える話などが出ていますが、新型コロナ感染対策は、現在特措法が発せられており、その特措法に基づいて様々規制されているのが現状です。根本的な対策が必要であり、やはり平時の

危機管理について検討することの重要性を改めて認識させられます。危機管理は、企業ベースから個人ベース、また地域をベースとする様々な方面から検討することが考えられます。この度の新型コロナや先月末に国内で初めての感染者を出したサル痘症などの感染症の他、地震や水害などの自然災害時への対応なども危機管理としては大変重要なものとなっていることは十分理解できることだと思います。

さて、当クラブは今年度30周年を迎えております。今年度は記念事業の一環として二つの事業を計画しています。まず一つ目は、平成10年から進めてきた日本一の芋煮会フェスティバルのプレイベント事業の「ふれあい芋煮会」。二つ目に、コロナ禍における新規事業として小林年度から始められた「被爆ピアノコンサート事業」です。現在、関係者との調整が進められていますので、会員の皆さんにはご協力の程を改めてお願い致します。

また、国際ロータリーの地区補助金に二つのプロジェクトを申請していましたが、この度地区事務局から正式に認められた旨の連絡を頂戴しました。お願いした額の約7割となりましたが、この補助金は有意義に活用させていただきたいと考えていますので、ご担当の委員会の皆様宜しくお願い致します。

ところで、会員の皆さんには、以前今年度の組織図をFAXにてお知らせしましたが、再度のご確認をお願いすると共に、先ごろ30周年実行委員会の部会長会議で決定している「30周年実行委員会の組織図」についてこの例会後開催の理事会で承認した後、事務局よりFAXにてお知らせしますので、ご確認も併せてお願いしまして、会長挨拶にさせていただきます。ありがとうございました。

本日出席・修正出席

	会員総数	出席義務出席数	出席会員数	出席率
本日出席	37名	—	22名	—
修正出席				
他クラブでメイクアップされた会員				



ガバナー補佐訪問

RI2800地区 第5グループ

ガバナー補佐 後藤 卓也 氏(山形イブニング)

こんにちは、ただいまご紹介いただきました今年度ガバナー補佐を務めております山形イブニングロータリークラブの後藤卓也です。今日は卓話という事でお話させていただく機会をいただきありがとうございます。コロナ感染者激増の中、私のような者の卓話にお越しいただきありがとうございます。今年度会長の石山さんとは私が幹事をした時に同じ幹事で一緒に、それからは親しい友人の一人としてお付き合いさせていただいております。今年この立場で卓話をするのは上山に次いで2度目なのですが、とても緊張しております。私は山形市内で「ガリ版資料館」を運営しております、ガリ版についての講演は長いところで2時間くらい、さまざまなロータリークラブや倫理法人会で30分の卓話をしておりまして、中央ロータリークラブさんには一度ガリ版についての卓話でお伺いした記憶があります。ガリ版についてのお話であれば、いくらでも話せるのですが、ロータリーには入会してからまだ13年あまりと諸先輩方に比べてまだまだ知識不足とっておりますので、間違っている点等をご指摘いただき、皆さんから教えていただきながら、勉強しながら向上していく一年にしたいと思っております。ご指導宜しく願いいたします。卓話については素人ですので、時間配分がわかりません。時間が余りましたら、私が趣味で集めたロータリーソングのレコードをお聞かせできればと考えております。

先ほど、立派な計画書頂戴いたしました。当クラブ実は私のクラブはまだ完成しておらず、校正中です。少し参考にさせていただければと考えております。ロータリーの理論的な事については、情けないのですが、まだまだ知識も浅く、勉強中ですので、今日は私の13年間のロータリー経験の一端をお話させていただき、その中から自分なりに考える「奉仕」や、ロータリークラブについてお話させていただければと考えておりますので、宜しくお願いいたします。

高校卒業後、大学とその後の数年東京にいました。就職したのが、山一証券という会社で、倒産したその時の社長が「社員は悪くありません」と涙ながらに話していたのが印象的であった会社に4年程おりました。その後父親の具合が悪くなって、「山形に戻ってこい」との事で退職し、今の中央印刷に入りました。会社は父親が創業者で2代目です。26歳で山形に戻ってきていきなりお客様からの強い勧誘により、青年会議所に入会させられました。それから40歳までの15年間青年会議所に在籍しました。各ロータリークラブの中には青年会議所でお世話になった

方がたくさんおります。そして15年目にはほとんど疲れ果てていた状態であり、青年会議所卒業直後からさまざまなロータリークラブから勧誘を受けました。その時のロータリークラブの印象は「青年会議所の親団体で、酒飲みさんまいの金持ち・道楽集団」と思っておりましたので、その当時のガバナーからお誘いを受けたりもしたのですが、けんもほろろに断り続け、今考えてみると失礼な事をしてしまったなと思いますが、巧妙に逃げまくっていました。48歳の時にイブニングロータリークラブ現会員で、当時会社の売上1位のお客様から「当クラブに印刷会社の会員がいなくて、会報を毎週作ってくれる印刷会社メンバーを探している。会費は会報の印刷代でペイできるから、とにかく入ってくれ」との事で気乗りしなかったのですが、「半ば強制的に」2009年10月、何もわからないままに入会させられました。そして2010年7月から会報の編集を始めたわけですが。私の小さなクラブでは写真撮影とクラブ会報制作は全て広報委員長がしなければならず、会長幹事の時はさすがに写真撮影をいろいろな方に頼みましたが、会報編集はしていましたし、今年ガバナー補佐であってもクラブでは広報委員長として例会写真撮影・広報紙作りをしております。広報紙を編集するためにはすべての例会に必ず出席しなければ編集できないし、クラブの地区補助金イベントなど主なイベントは全て出席しました。これがよかったのでしょうか、入会后2・3年でロータリークラブの概要がわかるようになりました。例会に毎回まじめにできるようにになると「あいつは真面目だ」という事になり、3年目でSAA、7年目で幹事をする事となりました。印刷会社のメンバーは他のクラブでも大概は広報担当になり、そのせいでしょうか、クラブでの主要な役職を務めておられる方々が多いようです。中央クラブさんでは、川合さんが、私がこの業界に入ったところからさまざまな所でお世話になった先輩で、印刷組合では川合さんが専務理事、私が常務理事という事でお世話になっております。

話がいきなり変わりますが、皆さんは50歳以上くらいのある程度年配の年齢をすぎてから大粒の涙を流して泣いた経験をした事があるでしょうか、私は今年61歳になるのですが、2回あります。それは全てロータリークラブでの涙でした。幹事を務めていた年に2年後の20周年記念事業の中心となる会長を決めなければならなかったのですが、数年前から「20周年記念の年の会長は俺だ！」といていた会員が何故か突然例会に出てこなくなり、会長



を引き受ける話もどこかに行ってしまいました。それで20周年の会長を誰もやらない、やりたくないとなり、20周年会長を決める事ができなくなり、時間が過ぎ、結局「幹事のお前がやれ」という事になり、20周年は皆で協力してくれる事を条件に引き受ける事になりました。その瞬間から「幹事兼副会長」となってしまったのです。20周年会長をなぜ皆引き受けないのかだんだん分かってきました。我々のような小さなクラブはとにかく金が無いのです。情けないくらいです。周年事業をやるとなると、莫大な費用の持ち出しが必要になります。10周年の時から積み立てはやっていましたが、大体山形RC、西RC、北RCのような大きなクラブに比べると1/3か1/4の予算で何とか格好をつけた20周年をやらなければならないのです。大変だと解っているのに、誰もやりたくないのです。限られた予算の中で、来て頂いた皆様に如何にして喜んで頂けるかを第1目的に20周年の組織を組みました。例えば「橋本マナミを呼ぼう」となったら、それだけで全体予算が無くなります。「お金が無かったら、何をしよう…」金が無いなら汗をかきしかかないと腹をくくりました。我々の熱意を伝えるためにはどれだけの汗をかいたらいいのか何十回も議論を重ねました。

その時に一番の思い出があります。この年のガバナーは南クラブの大久保さんでした。大久保さんからは、その年他県でセクハラ行為があったとかで各種行事での「手に手」をしないでほしい旨のお達しがありました。それでもコロナ前でしたので、何としても「手に手」をやりたいと大久保ガバナーに直訴、「仕方ないね～、やっていいよ」と納得いただき、「手に手」で締めることにしました。そして大きく盛り上がり出席者の皆さんから良かったと言っただけで済んだ。その後にはクラブメンバーだけの反省会がありました。その席上クラブメンバーに「ありがとう」だけしか言えませんでした。北島選手がオリンピックで金メダルを取った時に「何にも言えねー」と言ったことが有名ですが、「ありがとう」「ありがとう」それ以外の言葉がみあたりません。そうしていると、おもわず涙があふれました。するとクラブメンバーが寄ってきて「良かったねー」の連発、もうぐじゃぐじゃになりました。私は青年会議所の時に酒を飲みすぎたからかわかりませんが、両親ともに一滴の酒が飲めない家系で、無理して飲みすぎたからか、5年ほど前にドクターストップが掛かり、それから酒

を飲んでいないのですが、この日ばかりは、「これで死んだら本望だ」とひたすら飲み続けました。それからは酒を飲んでおりません。今年のIMか、無事ガバナー補佐の大任を終了するまでは断酒を続けたいと思っておりますので、ご理解お願いいたします。

これがうれし涙でした。その後翌年IMの主管が巡ってきました。当初実行委員長に内定していた会員が急に会社の事情で休会してしまい、誰が実行委員長にという事になりました。その時は会長で、次年度直前会長で「何もする事が無いだろうから」という事で急に実行委員長をお引き受けすることとなりました。前年のIMで受諾演説を行い、2021年1月23日大会と決めました。それからさっそく実行委員会を立ち上げ、式典の後長岡弘樹先生の講演、懇親会のアトラクションと計画は進みました。ところがコロナオミクロン株です。前年通りに行う予定が、懇親会の人数制限となり、次に懇親会は行わず弁当持参してもらう事となり、各クラブPRキャラバンも終わり何とか大会だけはできるかと思われた12月、中央さんの例会でPRした翌週、コロナ急拡大で緊急事態宣言が出されました。最後のとりでのリモート開催か、となりました。ところがリモート開催の場合、登録料はもらえず、何十万と運営経費がかかり、それをクラブ内での消化はとても無理、協力金を各クラブに求めるのもどうかとなり、12月14日、ガバナー補佐にわざわざ当クラブ例会に来ていただき、中止を決めました。延期の検討もされましたが、いつ終息するかわからない状況であり、延期でなく中止を決めました。その後の例会で大会中止正式発表を行いました。その時は淡々と話し、クラブメンバーも「仕方ねえな～」という事で例会も終了、家に帰って一人になった時、思わず涙がでてきました。「なんで、なんで、なんで」誰も悪くないのです。しかし大会は中止、今まで何か月も必死になって取り組んできたのが、結果的には何もしなかったことと同じなのです。家族に泣いているところを見られると心配かけますので、一人泣いていました。顔を洗って何も無かったように家族の前に行きました。今でも思いますが、各クラブの皆様へPRし、何か月もかけて段取りを組んでいたIMができなかった。本当に情けなかった。この悔しさはどこにもぶつけられません。自分で吸収するより他はないのです。

二つの涙を振り返って、うれし涙はみんなから喜んで



ただき、笑顔あふれる感動を生みます。悔し涙は自分一人でじっと我慢しなければなりません。もちろん慰めてくれた人はたくさんいます。それでも最後は一人で我慢するしかないので。私はこのくやし涙を経て、これ以上のくやしさをその後経験していません。このくやしさに比べればたいはいの

事には我慢できる強さをいただいたような気がします。

皆さんの大部分は会社の代表かナンバー2ナンバー3といった要職についておられる方が多いと思います。会社ではどんな事があっても感情を殺す場面が多いのではないかと思います。まして社員の前で涙することは出来ないと思います。そんな中で、感動を仲間と共に共有する機会がある、これが私にとってのロータリーであると思います。そして、年齢関係なく人前で泣く、これが許される、それがロータリーではないかと思います。私にとっての「奉仕」はクラブメンバーや、ロータリーメンバー、そして会員外のさまざまな方に「笑顔の種をまくこと、そして感動の種をまく事」だと思います。それには無償の汗や思いが必要だと思いますし、ウクライナ支援のように無償の汗が出来ないところにはお金での援助が必要だと思います。

世の中の人々の目として、私が青年会議所を卒業してから入会前に抱いていたような「ロータリーは金持ちの道楽集団だ」という理由も無い、やっかみも加わった印象を持っている人もいます。子どもたちや、一般の方々に対して喜んでもらえる種を地道にまき続ける事が、そういった誤解をなくす事ですし、私にとっての「奉仕」と思っております。その中で楽しい例会、楽しいクラブづくりをやっていく事が会長・幹事の役目であると、ひいて言えば退会者の防止や会員増強に繋がっていくのかなと思っています。

いかに楽しい例会をつくるか…。去年、一昨年はいろん

な事がコロナで中止になっています。今もコロナ感染が激増して、さまざまな制約が出てくるような年になりそうですが、その中で1年前にやっていない事で今年やれる事があるかもしれない。2年前、3年前にやったことを今年いよいよやるとなると、かつての恒例行事であっても去年やっていないと前例は参考にならないのです。前例が無いと何を頼るか大変な年になってくる訳です。逆に言えば前例がない時こそ、新しい事にチャレンジできるチャンスだと思います。ロータリーの活動が2年、3年出来なかった事は残念ですが、「何年前にやったことと同じ事をやるというのは無いよ。勝手に新しい事をやったら」という事が許される年度になるかもしれないと思います。

今年1年、さまざまな制約の中、ガバナー補佐として全力でやれるギリギリまで頑張っていきたいと思っています。今後ともご指導、ご支援頂く機会が多いと思います。これからも宜しくお願いいたします。ありがとうございました。



ニコニコ情報

ガバナー補佐 後藤卓也／今日卓話をさせていただきます。これから一年間ご指導ご協力よろしく願いいたします。

長橋正人／後藤ガバナー補佐の御来訪に感謝し

ます。今後共宜しくお願い致します。

玉ノ井憲史・高橋恭治／後藤ガバナー補佐殿、クラブ協議会・例会と大変お疲れ様でした。今後ともご指導の程よろしくお願い致します。

斎藤 眞／父 遠藤来二の葬儀では心づかい頂きましてありがとうございました。

石山徳昭・佐竹猛／後藤ガバナー補佐、本日は当クラブにおこしいただきありがとうございます。



8月 会員誕生・創立企業日

誕生日 遠藤隆一 佐藤吉信 佐竹純一

企業創立記念日 丹野秀樹 (株)丹野
本間雅之 ソニー生命保険(株)
相川博昭 (株)サム・コミュニケーションズ